

付録（単元構造図）

本付録では、民間と連携した水泳授業を実施する際の単元計画例を、単元構造図を用いて示しています。本文では、アンケート、インタビュー、授業視察の結果から、水泳授業における教育的価値、教員の関わり方、学習評価の在り方などについて整理し、今後の民間と連携した水泳授業への示唆を提言しました。本付録は、それらの成果を踏まえ、学校として水泳授業をどのように設計・運営するか、学校として何を整える必要があるかを具体的に示すことを目的としています。

なお、本付録に示す単元計画例(単元構造図)は、各自治体や各学校の実態に応じて柔軟に再構成されることを前提としています。児童生徒の実態、施設条件、教員体制、連携形態に応じて調整しながら、学校体育としての水泳授業の質保証を図るための参考資料として活用されることを期待します。

単元計画例(単元構造図)の見方

【1】「単元を貫く問い」や「単元テーマ」について

この単元で教師が児童生徒に何を身に付けさせたいのか、どのような姿を目指すのか等を示しています。

【2】単元目標について

学習指導要領の項目に合わせて(知識及び技能)、(思考力、判断力、表現力等)、(学びに向かう力・人間性等)で示しています。

【3】評価規準について

単元目標の実現状況を把握するための規準(おおむね満足できる状況)を設定しています。

【4】学習の流れについて



単元計画の実現を目指して、実際の授業で誰が(教師・インストラクター)、何を教えるのか(指導内容)、どのような活動を行うのかを明確にし、縦と横の時系列(分・単位時間)で配列しています。なお、ここにはプールまでの移動時間は含んでいません。また、時数において()で示しているのはプールでの活動時間とします。そのため、実際には適宜休憩を入れるようにして下さい。


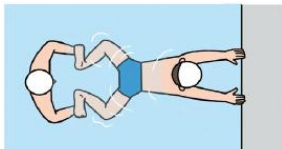
【5】評価機会について

評価を実施する主体は教員です。評価規準の内容に沿って形成的な評価を行うために、いつ(何時間目)、何について(観点別)評価を行うか明確にします。

※学習の流れに記載している「イ」はインストラクター、「教」は教員のことです。技術指導を担う指導者を示している。例えば、「イ1」はインストラクターが1名で「イ1・教1」はインストラクター1名と教員1名の2名でグループを指導するということです。

小学校高学年(第5学年及び第6学年) 単元名【水泳運動】

「単元を貫く問い」や「単元のテーマ」			
<p>続けて長く泳いだり、泳ぐ距離や浮いている時間を伸ばしたり、記録を達成したりする楽しさや喜びを味わうことができるようにする。</p>			
単 元 目 標	<p>(知識及び技能) クロール、平泳ぎの楽しさや喜びを味わい、行い方を理解するとともに、手や足の動きに呼吸を合わせて続けて長く泳ぐことができるようにする。</p>		
	<p>(思考力、判断力、表現力等) 自己の能力に適した課題の解決の仕方や記録への挑戦の仕方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを友達に伝えることができるようにする。</p>		
	<p>(学びに向かう力、人間性等) 運動に積極的に取り組み、約束を守り助け合って運動をしたり、仲間の考えや取組を認めたり、水泳運動の心得を守って安全に気を付けたりすることができるようにする。</p>		
	時数	1 (教室)	2・3 (プール)
学 習 の 流 れ	5 (10)	オリエンテーション 1 学習の見通し ○単元の目標 ○移動方法 ○準備物	<p>1 準備運動 ○様々な部位の伸張、回旋等 2 水慣れ ○水中じゃんけん ○ばた足相撲、かえる足相撲</p> <p>3 コース別に分かれた運動 【ぐんぐんグループ】「イ1」 け伸び競争→け伸びからばた足 →面被りクロール等</p> <p>【どんどんグループ】「イ1・教1」 け伸びリレー→け伸びからばた足 →面被りクロール・平泳ぎ等</p> <p>【すいすいグループ】「イ2」 け伸びからばた足→面被りクロール →呼吸を伴う初歩的な泳ぎ等</p> <p>4 振り返り ○できるようになったこと、がんばったことを発表し、評価する 5 整理運動 ○様々な部位の伸張、回旋等</p>
	10 (20)	2 約束の確認 ○着替え、トイレ ○プールサイド ○安全の心得	
	15 (30)	3 運動の紹介 ○クロール ○平泳ぎ ○安全確保につながる運動	
	20 (40)		
	25 (50)		
	30 (60)		
	35 (70)		
	40 (80)		
45 (90)	4 めあての決定 ○自分の目標を設定		
評 価 機 会	知識		①②
	技能		
	思・判・表		
	態度		①

評価規準	知識	①クロールの行い方について言ったり書いたりしている。(行い方) ②平泳ぎの行い方について、言ったり書いたりしている。(行い方)	
	技能	①左右の手を入れ替える動きに呼吸を合わせて、泳ぐことができる。(クロール) ②手の動きに合わせて呼吸し、キックの後には息を止めてしばらくしてから伸びて、泳ぐことができる。(平泳ぎ)	
	思・判・表	①課題の解決のために自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。(表現)	
	態度	①水泳運動の心得を守って安全に気を配っている。(健康・安全) ②水泳運動に積極的に取り組もうとしている。(愛好的態度)	
4・5 (プール)		6・7 (プール)	8 (教室)
1 準備運動 ・様々な部位の伸張、回旋等 2 水慣れ ・水中じゃんけん ・浮き、沈み 3 グループ (課題) に分かれた運動		リフレクション 1 分かったこと ○クロールでは手のかき(水を押し出す動き)が大切だ。 ○平泳ぎではキックの後に体を伸ばすと前に進む。 2 できたこと ○友達にかえる足のコツを教えてもらってできるようになった。 3 今後に向けて ○もっと長く泳げるように自分でも練習してみよう。 ○中学校での学習では、新しい泳ぎに挑戦したい。	
【クロールグループ】 「イ1」 ○手のかきの練習 ○呼吸の練習  ○バタ足の練習 ※児童同士で教え合いができるようにパディを組む ※補助具を使ったり距離を少しずつ伸ばしたりするなど段階的に行う	【平泳ぎグループ】 「イ1」 ○手のかきの練習 ○呼吸の練習 ○かえる足の練習  ※児童同士で教え合いができるようにパディを組む ※補助具を使ったり距離を少しずつ伸ばしたりするなど段階的に行う	【長く泳ぐグループ】 「イ1・教1」 ○より長く泳ぐことができるような体の使い方を考える ・1ストロークで進む距離が伸びるように意識 ・手や足の動きと呼吸のタイミングを合わせるように意識 ※児童同士で教え合いができるようにパディを組む	
4 振り返り ○できるようになったこと、がんばったことを発表し、評価する 5 整理運動 ○様々な部位の伸張、回旋等			
			①②
①		②	
		①	①
①			②